

たんさき
みみずく探査機

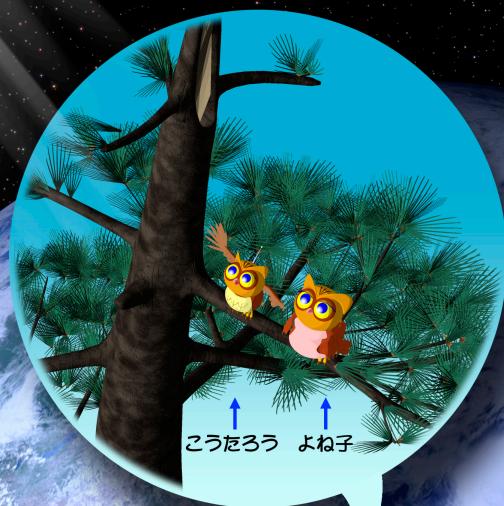
ほうほうの旅^{たび}



「とうちゃん、木星ってかんたんに行けるの？」

「そんなワケないさあ〜」

みみずく探査機のほうほうは、
息子の光太郎に宇宙の広さを教えるため、
体を張ってはるかかなたの木星にたびだちます。
はたしてほうほうは、木星にたどりつけるのか？
そして地球までぶじ戻れるのか？？
ほうほうの長い長い旅がはじまりました…



たんさき みみずく探査機

ほうほうの旅

主人公の家族は、みみずくのような姿をしているが、実はロボット。父の名前はほうほう。息子の名前は光太郎^{こうたろう}。母の名前はよね子。最近、光太郎はいろいろなことに関心をもちはじめ、宇宙について父に質問せめ、ほうほうもちょっとタジタジです。そんな光太郎の疑問にこたえるべく、ほうほうは木星に向かって長い長い旅にでかけます。

約 25 分

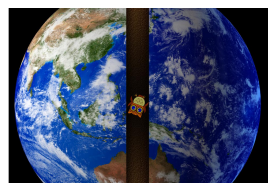
ほうほう一家

森の奥深く、ほうほう一家は住んでいます。今日も近くの山々を巡回したほうほうが帰ってくると、突然木の枝に逆さになってぶらさがった光太郎が現れます。いったい何してるの？



息子光太郎の疑問

「地球にトンネルをほったとき、もしそこに落ちたとしたら、いったいどこまでいくのかなあ？ もし地球が突然なくなったら、上とか下ってどうなっちゃうの？ おとなりの太陽まで 4.3 光年ってわりと近いんじゃないの？」



実験が一番！

「いいかよく聞けよ。光というのはだな、1 秒間に約 30 万キロ飛ぶんだ。1 時間というのは 3600 秒だから、時速約 10 億キロ。1 日で 240 億キロ。1 年間で約 9 兆キロ、光が 1 年間で進む距離のことを 1 光年っていうんだ…」そこへ母よね子登場。「そんなに数字ばかりずらずら並べたってよけいわからなくなるだけよ。光太郎に理解させるには実験するのが一番よ！」



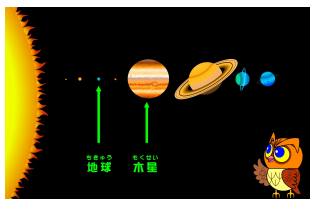
とうちゃん、木星に出発！

「目的地は木星くらいがちょうどいいわねえ…とうちゃんのからだを宇宙モードにセットしてと。ピッピッピッ！」
ありやりやりや～、ほうほう一瞬にしてロボットに変身！
「気をつけていってらっしゃ～い！」



木星って地球から近いの？

こんな惑星の説明図を見るかぎり、木星ってわりと地球に近そうなんだけどなあ。



地球を出てから 5 年後

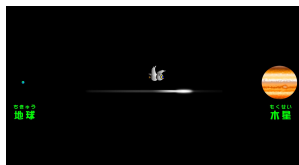


とうちゃん元気？ 今はどのあたりを飛んでいますか？
ぼくはずっと、とうちゃんの帰りを待っているよ。



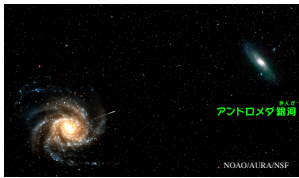
光の速さってどのくらい？

音よりも速く飛べるとうちゃんでも木星まで行くのに 35 年かかるんだよ。光は木星までたった 30 分で行けちゃうんだって！ そんなに速く進む光でさえ、おとなりの太陽、ケンタウルス座アルファ星まで 4.3 ～ 4.4 光年もかかるんだ。



宇宙の広さ

さらに、太陽系から銀河系の中心までは約 30,000 光年、我々の銀河系からおとなりのアンドロメダ銀河までは、なんと約 2,300,000 光年！ 気が遠くなるけど、いったい宇宙ってどれだけ広いんだ？



ぶじ木星にたどりついたか？

「地球を出てや～っと 35 年。木星は見えてきたけど、まわりには何にもないんだよ。とうちゃん、だんだん眠くなってきた。もうすぐ電池切れみたいだ…ふたりともたっしやでな…」



SF の世界では…

テレビ番組じゃ、すぐにワープっていうけど、そんなにかたんにいっかなあ…。とうちゃんもワープすればよかったね。



ドマー博士

ほうほうを造ってくれた、ツカツカ星のドマー博士。元気にしてるかなあ？



イラスト：塚田洋子 CG：NOBO 天体写真：NOAO/AURA/NSF